

第 61 回四国地区人権教育研究大会 教育長挨拶

平成 26 年 7 月 10 日（木） 10:00～
ひめぎんホール メインホール

本日は、御来賓の皆様をはじめ、四国各地から同和問題など様々な人権問題の解決に向けて、日頃から真摯に取り組んでおられます大勢の皆様をお迎えして、第 61 回四国地区人権教育研究大会が、このように盛大に愛媛で開催できますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、今年、1924（大正 13）年に松山で全四国水平社大会が開催されてから 90 年を迎えます。当時の新聞は、その時の様子を「自由と平等を求むる熱烈悲痛な雄叫、人間礼讃の大獅子吼をなす」と報じています。

こうした人々の熱い思いを受け継ぎながら、これまで「四国はひとつ」の合言葉のもと開催されてきた本大会も 61 回を重ね、21 世紀を真の「人権文化が花咲く世紀」に発展させるための研究と実践の交流の場として、実り多い成果を収めてきました。

しかし、残念ながらいまだに私たちの周りには、同和問題をはじめ様々な人権問題が存在しています。四国遍路における差別的な貼り紙やスポーツの大会において、特定の外国人を排斥しようとする言動が、人権侵害につながるとして大きな問題となりました。こうした問題を解決し、一人一人の人権が尊重された豊かで安心できる、成熟した社会を実現していくのが人権教育の役割であります。

さて、本大会のポスターを御覧いただくと、そこには風に乗って大地を舞うタンポポの綿毛が描かれています。

癒やしの詩人と言われた、本県ゆかりの坂村真民氏は「本当の愛」と題して次のような詩を残しています。「本当の愛とは タンポポの根のように強く タンポポの花のように美しい そして タンポポの種のように四方に幸せの輪を広げてゆく」

私たちは人権教育を通して、人権文化をしっかりと根付かせ、幸せの輪を広げていかななくてはなりません。

本日ここにお集まりの皆様のお力添えにより、人権尊重の精神という種が、これまで以上に四国各地に広がり、根付き、花咲くことを期待しております。

結びにあたり、本日御参会の皆様方の一層の御健勝、御活躍を心から御祈念申し上げます。御挨拶といたします。